

東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート Morning Concert

第3回

2026年6月4日(木)

指揮：角田鋼亮

藝大フィルハーモニア管弦楽団

鈴木 凜（ピアノ）

リスト：ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S.124

山下凱冬（チェロ）

ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲第1番 変ホ長調 作品107

19：45開演 東京藝術大学音楽学部第6ホール

主催：東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

◆鈴木 凜（4年：ピアノ）SUZUKI Rin

リスト：ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S.124（演奏時間約19分）

埼玉県出身。第76回全日本学生音楽コンクール ピアノ部門 高校の部 東京大会第1位、全国大会第1位、併せて野村賞、井口愛子賞、NHK会長賞、音楽奨励賞受賞。第7回ベートーヴェン国際ピアノコンクールアジアD部門第1位、併せて横浜シンフォニエッタ賞、若林暢賞、相模湖交流センター賞受賞。

第29回彩の国・埼玉ピアノコンクールE部門金賞、併せて埼玉新聞社賞、埼玉ピアノコンクール賞、ヤマハ賞受賞。

2015～2019年ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会出場、C級・D級・E級・Jr. G級・F級において入賞入選、他多数入賞。ソニーCSLピアノアカデミー第1期生・第2期生・第3期生。東京藝大ジュニア・アカデミー第2期生、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、現在、宗次徳二特待奨学生として、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻4年に在学中。これまでに、川名紫穂、上原彩子、大嶺未来、江口玲の各氏に師事。



「ピアノの魔術師」と称されたフランツ・リスト（1811～1886）による、ロマン派ピアノ協奏曲の最高峰に位置づけられる傑作です。着想から完成まで20年以上という長い歳月が費やされ、1855年、ワイマールにてリスト自身のピアノ、エクトル・ベルリオーズの指揮により初演されました。

本作の最大の特徴は、「主題変容（しゅだいへんよう）」という手法が用いられている点です。提示された一つの主題（メロディ）が、リズムやテンポ、楽器を変えながら曲全体を通して姿を変えて現れることで、楽曲全体に強い統一感をもたらしています。また、全曲は途切れなく連続して演奏されますが、内部は大きく4つの部分に分かれており、伝統的な協奏曲と交響詩を融合させたような革新的な構成を持っています。

第1部：アレグロ・マエストーソ（変ホ長調）

冒頭、弦楽器によって力強く威圧的な主題が提示されます。リストの弟子であるハンス・フォン・ビューローが、この印象的なフレーズに「お前たちには到底わかるまい、ハハ！（Das versteht ihr alle nicht, haha!）」という歌詞を当てはめたという逸話は有名です。これに応えるように、ピアノがオクターブの連続による華麗で圧倒的なカデンツァを響かせ、壮大に幕を開けます。

第2部：クアジ・アダージョ（ロ長調）

熱狂的な第1部から一転し、夜想曲（ノクターン）のように美しく叙情的な音楽となります。弱音の弦楽器に乗せて、ピアノが夢見のような甘美な旋律をたっぷりと歌い上げます。

第3部：アレグレット・ヴィヴァーチェー アレグロ・アニマート（変ホ短調）

軽快なスケルツォに相当する部分です。ここで打楽器の「トライアングル」が極めて効果的に使用されます。初演当時、保守的な批評家から「トライアングル協奏曲」と皮肉られました。ピアノの高音域での繊細なトリルとトライアングルの澄んだ音色の絡み合いは、見事な色彩感を生み出しています。

第4部：アレグロ・マルツィアーレ・アニマート（変ホ長調）

金管楽器が吹き鳴らされる、勇壮な行進曲（マルツィアーレ）風のフィナーレです。ここでは新しいメロディは提示されず、第1部や第2部で登場した主題が、テンポを速め、輝かしいマーチの姿に「変容」して再登場します。最後はピアノとオーケストラが完全に一体となり、圧倒的な技巧と音響の渦の中で、熱狂的に全曲を閉じます。

リストならではのピアノの超絶技巧はもちろんのこと、オーケストラとの緻密な対話や、洗練された構成美を存分に堪能できる華やかな一曲です。

（鈴木 記）

◆山下凱冬（4年：チェロ）YAMASHITA Kaito

ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲第1番 変ホ長調 作品107（演奏時間約28分）

2004年生まれ。幼少よりピアノ、武蔵野音楽大学付属音楽教室にてチェロを始める。都立総合芸術高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科弦楽専攻4年次に在学中。

第25回日本演奏家コンクール大学生の部第3位。第78、79回全日本学生音楽コンクール大学の部全国大会入選。第40回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール第2位。

上山音楽祭、アカンサス音楽祭に参加。早期教育プロジェクト2025 in 東京、藝大定期室内楽第52回などに出演。

これまでに山崎みのり、友田唱、北垣彩の各氏に、現在、中木健二氏、山本大氏に師事。



ドミートリイ・ドミートリエヴィチ・ショスタコーヴィチ（1906-1975）は、20世紀を代表するロシアの作曲家。交響曲や弦楽四重奏曲をはじめ、協奏曲、オペラ、映画音楽、ピアノ曲など幅広いジャンルで作品を残している。当初は前衛的な作風で注目を集めたが、スターリン政権による大粛清が始まると、ロシアでは多くの知識人や芸術家が厳しい統制下に置かれた。ショスタコーヴィチも1936年、自作のオペラが体制から批判を受け、それまでの作風からの転換を迫られた。ショスタコーヴィチの中期の作品は謎が多く、表向きは社会主義リアリズムの要求に応えつつ、裏に批判的なメッセージを込めた「二重言語」を駆使しているとされる。彼がどのような思いで創作にあたっていたのか、その解釈をめぐる議論は現在も続いている。

チェロ協奏曲第1番が書かれたのはスターリン亡き後の1959年、言論や文化への厳しい締め付けが緩みはじめた「雪解け」と呼ばれる時期にあたる。ショスタコーヴィチは生涯でチェロ協奏曲を2曲残している。彼はプロコフィエフの「チェロと管弦楽のための交響的協奏曲」を聴いた際、ロストロポーヴィチの演奏に触発され、チェロ協奏曲の創作に取り組んだといわれる。この作品はロストロポーヴィチの助言を受けて作曲され、彼に献呈された。

第1楽章 Allegretto

自由な形のソナタ形式。独奏チェロの4音と、それに応える木管の軽快なリズムで、第一主題を提示する。ティンパニの一撃でショスタコーヴィチのイニシャル（DSCH）を展開した第二主題（C-H-Es-D）へと切り替わり、それが執拗に繰り返される。軽快で躍動的だが、作曲家特有のアイロニーが込められた行進曲。

第2楽章 Moderato

弦楽合奏による情感豊かな序奏に続いて、ホルンの導きで独奏チェロが嘆きに満ちた主題を歌う。主題は繰り返し展開され、やがて痛みと苦悩を伴った壮大なクライマックスへと至る。ホルンのファンファーレを合図に、冒頭の主題が独奏のハーモニクスとチェレスタによって奏でられ、静かに消えていき第3楽章に入る。

第3楽章 Cadenza（Attacca）

独奏チェロのモノローグ。第2楽章の中間部のモティーフから始まり、前半は第2楽章のさまざまなモティーフが次々に現れる。後半は次第にテンポも上がり、緊張感を増して切れ目なく第4楽章に突入する。

第4楽章 Allegro con moto

ロンド・ソナタ形式。木管楽器の半音下降の主題が提示され、すぐに独奏チェロが模倣する。オーケストラの軽快なリズムに乗って、唐突に三拍子が現れる。終盤は、断片的に再現されていた第1楽章の主題が完全に回帰し、ティンパニの連打で強烈に締めくくられる。

本日はお忙しい中、モーニング・コンサートにお越しくださりありがとうございます。指揮の角田鋼亮先生、藝大フィルハーモニア管弦楽団の皆さま、いつも温かくご指導くださる先生方、この演奏会を支えてくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。

（山下 記）



©Makoto komiya

東海高校卒業後、東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2002年、安宅賞受賞。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管、ブランデンブルグ響、上海歌劇院管、札幌響、山響、仙台フィル、群馬、N響、読響、都響、東響、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、東京シティ・フィル、神奈川フィル、名古屋フィル、中部フィル、愛知室内オケ、アンサンブル金沢、京響、大阪フィル、日本センチュリー響、広響、九響等と共演している。

2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を務め、2019年より常任指揮者に就任。2016-2020年大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022年 仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される指揮者の一人として各地にて活躍の場を拓いている。2016年「第11回名古屋ベンクラブ音楽賞」、2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。現在、セントラル愛知交響楽団音楽監督を務めている。

管弦楽：藝大フィルハーモニア管弦楽団 The Geidai Philharmonia Orchestra, Tokyo

藝大フィルハーモニア管弦楽団（2016年秋、「藝大フィルハーモニア」から改称）は東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラで、定期演奏会のほか、声楽科との「合唱定期」、オペラ専攻との「オペラ定期」、音楽学部の新卒業生紹介演奏会、年末恒例の「チャリティーコンサート メサイア」（朝日新聞厚生文化事業団・朝日新聞社主催）、「台東第九公演」などを行なっている。教育面では、器楽科・声楽科学生との協奏曲等の共演および作曲科学生の作品披露を行う「モーニング・コンサート」（年13回）や、指揮科学生との演奏会・試験・演習、東京藝大ジュニア・アカデミーの生徒との協奏曲の共演などを通して、学生の演奏経験の拡充に資している。学外での活動も積極的に行なっており、近年では、新国立劇場での「世界若手オペラ歌手ガラコンサート」や現代舞踊名作劇場（現代舞踊協会）の出演をはじめ、長崎県五島市、新潟県長岡市、新潟県魚沼市、秋田県秋田市、茨城県取手市でも公演を行い、いずれも好評を博した。海外では、2017年6月のチリでの4公演（日本・チリ修好120周年記念）に続き、2023年12月には、世界三大劇場の一つであるアルゼンチンのコロソ劇場（Teatro Colón）からの招聘による公演で聴衆を魅了し、15分以上に及ぶスタンディングオベーションを受けた。また2024年12月には、ヴァイオリンの巨匠ジェラルド・プーレ氏と共に、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲のCD録音を実施した。（公社）日本オーケストラ連盟準会員。



ソロ・コンサートマスター
植村 太郎

コンサートマスター
澤 亜樹
対馬 佳祐
玉井 菜採 *◎

第1ヴァイオリン

荒井 友美
生田 絵美
加藤えりな
金子 芳子
河野由里恵
佐原 敦子
菅谷 早葉
西田 史朗
前田 奈緒
増尾 朗子
松下 眞子 *
中井 楓梨 ◆

第2ヴァイオリン

村津 瑠紀 ○
山本 有紗 ○
清岡 優子
小暮 莉加
小杉 結
野田 良子
福井 彩花
福崎 雄也
マヤ・フレーザー
宮本 有里
吉田 紫花 ◆

ヴィオラ

安藤 裕子 ○
吉田 篤 ○
阿部 哲
梶岡 弥生
中川玲美子
麻柄明日香
森 朱理
岡 さおり *
神山和歌子 *
福井 萌 *

チェロ

羽川 真介 ○
山澤 慧 ○
寺井 創
豊田 庄吾
夏秋 裕一
松本 卓以
小川 純果 ◆

コントラバス

赤池 光治 ○
長坂 美玖 ○
倉持 敦
小室 昌広
丸地 郁海 *

フルート

細川 愛梨
山本 葵
西谷あゆみ ◆

オーボエ

戸田 智子
山田 涼子
クラリネット
濱崎 由紀
春田 傑

ファゴット

坪井 祐樹
宮崎 寿理
日谷 唯斗 ◆

ホルン

谷 ひな子 ○
岡村 陽
堂山 敦史
梁川 笑里

トランペット

平山あかり
星野 朱音
後潟 花菜 ◆

トロンボーン

東川 暁洋
久保田和弥
松ヶ野土筆 *
狭間 萌花 *

ティンパニ&パーカッション

井手上 達
ニツ木千由紀
松本 源示 ◆

チェレスタ

森下 唯 *

楽団長
福中 冬子

事務局長
酒井 敦

事務局長次長
小宮山雄太（チーフ・ステージマネージャー）
小久保綾子（チーフ・ライブラリアン）

インスペクター
葛谷 拓摩

ステージマネージャー
森本 直通

アシスタント・ステージマネージャー
徳永 芽久

ステージスタッフ
神山 巧弥

ライブラリースタッフ
安田 沙織
廣田 碧
小林 世佳

演奏活動強化担当
足立 優司

庶務
野村 智行
松井 勝幸

発行：2026年6月4日(木) 東京藝術大学
編集：東京藝術大学音楽学部
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
お問い合わせ：東京藝術大学演奏芸術センター
TEL 050-5525-2300
※無断転載・複写・引用などを禁じます

◎：コンサートマスター
（本公演）
○：首席奏者
◆：賛助出演
＊：本学学生